

# イベント情報

## 森の工作教室

本立て、マガジンラック、状差しなどを自分で作ってみよう！

教室が開いている日と時間

1月12日(日)・19日(土)

午前10時から12時まで  
(所要時間最低1時間)

講師 田中 旻

開催場所 森林科学館(オオムラサキセンター隣り)

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円・小中学生200円  
(町内中学生以下無料)

材料費 作るものにより、500円~700円の材料費がかかります。

## 小枝で作る！虫の工作

小枝を使って、カブトムシなどの昆虫を作ってみよう！

開催日時 1月26日(日)

午前10時から12時まで

講師 田中 旻

定員 20名

開催場所 森林科学館

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円・小中学生200円  
(町内中学生以下無料)

## チョウの雑学展

チョウに関する面白いエピソードとともに、チョウについていろいろを知ることができます。

「名まえの由来」、「切手になったチョウ」、「変身クイズ」、「山梨県の幻のチョウ」、「国蝶誕生の裏ばなし」、「いま、国蝶を決めなおしたら・・・」、「イエロー・バタフライ、ブルー・バタフライ」、「あこがれの高山蝶」、「オスとメスでもこんなに違う」、「はねのかたちが物語る！シルエットクイズ」、「季節が変わればこんなに違う」、「ギリシャ神話の神々~ミドリシジミ」などなど。これを見れば、あなたもチョウ博士！

開催期間 2003年1月10日(金)から

3月30日(日)まで

開催場所 オオムラサキセンター

## お問い合わせ・お申込は

〒408-0022

山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地

長坂町オオムラサキセンター

TEL&Fax 0551-32-6648

URL <http://www.yatsu.gr.jp/ngs/oomurasaki/index.html>

## 身近な自然の お便りコンクール作品展示

身近な自然をはがきの中にそのまま映したような繊細な作品など、力作ばかり約150点を展示します。

開催期間 2002年12月1日(日)から

2003年1月31日(金)まで

開催場所 オオムラサキセンター

## オーロラ ~その彩と神秘の世界~

蘆崎市在住の自然写真家、牛山俊男さんが、天空に広がる美しいオーロラの、一瞬の輝きを捉えた写真展です。アラスカでの写真を中心に、ニュージーランドのオーロラや、日本で撮影された極めて珍しい低緯度オーロラの写真も展示します。

開催期間 2003年1月16日(木)から

4月3日(木)まで

開催場所 森林科学館

服装 作業のできる服装

入館料 大人400円・小中学生200円  
(町内中学生以下無料)

# オオムラサキ通信



発行：平成14年12月26日

編集：長坂町オオムラサキセンター

〒408-0022 山梨県北巨摩郡長坂町塚川 2812 番地

TEL&Fax 0551-32-6648

## No.56

## オオムラサキ博士になろう！

このコーナーでは、身近な自然のことや知っているようで知らない昆虫のことなどを紹介していきます。

### 国蝶誕生のウラばなし

今回は一月よりセンターで開催する「蝶の雑学展」に関するお話を紹介しましょう。「どうしてオオムラサキは国蝶になったのか？」とは、来館するお客様から非常によく訊かれる質問です。国蝶の選出は昭和八年、蝶類同好会の席上で九州大学の江崎悌三博士が「国の花が桜であるように、国の蝶があってもよいではないか」という話を持ちかけ、オオムラサキを推薦したことがきっかけでした。この話題は会員の興味をひき、他にも大きくて美しいミカドアゲハ、アゲハ、アサギマダラ、ギフチョウが候補に上がりました。白熱した議論の結果、高地にしか生息せず、一般人にはなじみの薄いアサギマダラと西南暖地ではミカンの害虫となってしまうアゲハがまず候補から脱落します。その後戦争で話は立ち消えとなりましたが、昭和三十年代に入り戦後の混乱も安定すると日本昆虫学会で国蝶選出の話が再燃しました。残った三種のうちどれが最も国蝶にふさわしいか ミカドアゲハは、関西以西に棲み、高知市では天然記念物に指定されています。夏の青空をバックに飛翔する姿はオオムラサキにひけを取りません。ギフチョウは東北から中国山地まで分布する日本特産種です。名前は発見地である岐阜県に由来します。桜の開花とともに現れ、里山でカタクリの花を訪れる姿は「春の女神」といわれるほど絵になります。オオムラサキはご存知のように夏の雑木林の象徴です。羽の紫、はばたき、さっそうと滑空するさまは他の蝶にはない美しさと力強さがあります。決選投票は昭和三十二年の昆虫学会四十周年記念大会で行なわれました。決め手となったのは分布地域でした。ギフチョウやミカドアゲハに比べ、北海道から九州まで全国的に分布するオオムラサキの方が国民に親しみやすいと判断されたのです。かくしてオオムラサキは晴れて国蝶の座についたというわけです。センターでは、蝶にまつわる面白い話を紹介しながら蝶に親しんでもらおうと、「蝶の雑学展」を開催しています。国蝶選挙で最後までオオムラサキに冷や汗をかかせたライバル達の素顔も見ることができます。この他にも、「名前の由来、山梨県の幻のチョウ、憧れの高山蝶、切手になった蝶」などなど。みなさんも可憐で不思議な蝶の世界をのぞいてみませんか？

(文責/小林隆人)

# 何処にサカナ?

## 「越冬幼虫観察会」実施報告

12月1日(日)午前10時から、森林科学館において朝日竹夫先生(自然とオオムラサキに親しむ会)を講師に招き、越冬幼虫観察会が行なわれました。

当日は町内の小学生ら30人が参加し、「びばりうむ長坂」内のエノキの根元から集めた落ち葉を1枚1枚丁寧にめくり、幼虫を探していました。成虫(チョウ)は見たことがあっても、この時期の幼虫を見たことがある人は少なく、「ちいさい!」と初めて見る幼虫に驚いていました。

オオムラサキの幼虫は、エノキの葉を食べて大きくなりますが、秋になってエノキの葉が落ちる時期になると、木を降り、落ち葉の中で冬を越します。今回は、その越冬中の幼虫を探しました。

エノキの調査木5本を調べた結果、合計で1017匹の幼虫を確認しました。



観察会の様子



越冬幼虫

調査木	幼虫数
No. 1	125匹
No. 5	20匹
No. 8	395匹
No. 12	281匹
No. 15	196匹
計	1017匹

# オーロラ ~その彩と神秘の世界~

蕪崎市在住の自然写真家、牛山俊男さんが、天空に広がる美しいオーロラの、一瞬の輝きをとらえた写真展です。アラスカでの写真を中心に、ニュージーランドのオーロラや、日本で撮影された極めて珍しい低緯度オーロラの写真も展示します。

開催期間 平成15年1月16日(木)~ 4月3日(木)  
 開催場所 森林科学館  
 入館料 大人400円、子供200円、(町内中学生以下は無料)



撮影：牛山 俊男

# 木の動物オブジェ展

= 森の住人たち =

木から生まれたシカ、ウマ、イノシシ、キツネ、クワガタムシなど里山の動物や昆虫がいっぱい。

雑木林から切り出したコナラ、シラカバ、サクラなどの木を使って、動物を作ってみました。生き生きとした表情の動物たちは、今にも動き出しそうです。

ぜひ、会いに来てください。



開催期間 平成14年12月23日(月)~

平成15年3月30日(日)

開催場所 びばりうむ長坂

入館料 大人400円、子供200円

# どうぞよろしく!

はじめまして! 私たちは12月の中旬に、ここオオムラサキセンターへ引越してきた、アイガモの夫婦です。今は、公園内にある手づくりの小屋で暮らしています。

寒さが厳しくなってきた、私たちの水浴び用のおけにも、氷が張ったりするようになりました。びっくりするけれど、新しい水を入れてもらおうと、うれしくて思わず飛び込んでしまいます。

春になったら、日の春農村公園の棚田で、古代米(緑米)を育てるそうです。田植えを体験する事もできるので、良かったらぜひ体験してみてください。農薬を使わない代わりに、私たちが田んぼで暮らすことで、植えられた稲を害虫などから守るんだそうです。

どうぞ、会いに来て下さいね。



先日降った雪が公園にも積もりました! 誰が作ったのかな。



# 今年もあとわずか...

2002年も残りわずかとなりました。本年中、皆様にはあたたかいご支援、ご協力を頂きまして、ありがとうございました。

来年も、よりよい施設を目指して職員一同、頑張っていきたいと思います。今後も、どうぞよろしくお願い致します。

## 冬季休館のお知らせ

12月28日(土)~2003年1月4日(土)まで、休館します。